

□ 書評 □

砂屋敷忠/吉川ひろみ/岡本珠代(編)

医療・保健専門職の倫理テキスト —悩める医療スタッフと学生のための事例集—

中屋久長
(高知リハビリテーション学院)

「コ・メディカルの教育カリキュラムで何か足りないものがある」と思い続けて 20 数年が経過した。以前、本学院では「職場倫理管理」という授業科目を 10 年余り開講していたが、その後の指定規則の改定や過密になったカリキュラムの改善、また、この領域の「倫理」を専門とする教授者が得難いなどの事情により、何時の日か各学科の課程で概論や特論に包含されてしまった。本書はまさに切望していたテキストと思われる。

編者らは、医療・保健専門職は人々の心身の健康と機能の促進・回復を助けるという尊い使命を持ち、その職に就く準備として科学的知識と技術の修得と同時に、クライアントや同僚、その他の関係者との間に良い関係を築くための準備をすることが極めて大切である。より深い人間理解と医療倫理や生命倫理は生と死、病と癒しに直面した時の人の行為のあり方に影響する。現在の医療・保健はチームワークが主体となり、関係者の倫理確立の必要性が痛感されると強調している。

本テキストの構成は、第一部/保健医療従事者の倫理、第二部/保健・医療従事者の倫理ジレンマからなり、第一部第一節の「事例検討と倫理原理」では、倫理に

関する事例検討の方法論、事例検討に参照されるべき人格の尊重、善行、無加害、公正の倫理などの原理をクライアントの権利と義務の枠組みのなかで、現代人の採用すべき倫理原理とは何かを分かりやすく解説している。第二節の「理代医療倫理とその背景」では、倫理諸原理を人格の尊重、公共の福祉、対話と参加にまとめ、それぞれについて解説、第三節ではインフォームド・コンセントの概念・理念、法原則、同意要件、説明要件など、第四節は「チーム医療の倫理」としてチームの意思決定、民主的チームワークを、第五節は各医療専門職業倫理綱領の強調点などについて解説している。

第二部では、30 の事例検討を使い、I. クライアントと保健・医療従事者、II. チームメンバー間のジレンマ、III. 保健・医療従事者と医師の関係、IV. 保健・医療従事者と経営者の関係、V. 制度の関連、について、第一部と照合させながら分析、考察、提案を具体的に学習できるように導いている。

更に、巻末資料には、権利と義務に関する宣言と医療専門職業倫理綱領を掲載し、理解が深まるよう構成されている。

専門職業倫理の視点からすれば、専門技術を根拠から支えるものとして、結局、自己の職業に対する責任、厳しく自己をみつめる専門職各人の「自己覚知」に帰着するといえる。その意味で、大いに教育に活用できる書と考える。

● B5 頁 133 2000 定価(2,300 円+税) 〒 300
医療科学社・刊